

光といのち

第74号

2012年1月1日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

Eメールino-teyy@khaki.plala.or.jp

住職 井上孝昌

謹賀新年

昨年は、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の年でした。

十年以上の準備期間を経て、真宗本廟（東本願寺）では、御遠忌法要（二部は、東日本大震災と福島第一原子力発電の事故の被災者支援のつどい）が厳修され、三十五万人を超えるご門徒が全国から参詣し、本山は賑わいました。当寺も希望者を募り参詣したことはご存じのとおりです。

修正会

一月二日（月）

十時～十一時半

お参りください。

迷っていることに
気がつかないと
いつまでも
迷っている。

前田義朗

真宗門徒の生活実践 念仏申す生活を

礼拝の生活
毎日欠かさずご本尊に直面しよう。

お内仏のお荘厳を整え、お給仕を正しくしよう。

正信偈をおつとめし、教えの言葉に触れよう。

新しく家庭をもったら、必ずご本尊をお迎えしよう。

開法の生活

念仏の教えを聞き、同朋を見いだそう。

月に一度は法座に参加しよう。報恩講をはじめ、お寺の行事に積極的に参加しよう。

正信の生活

迷信に惑う私を解放しよう。念仏をよりどころとして生きる道を聞き開き、占いや霊信仰と訣別しよう。

帰敬式を受け法名をいただき、真宗門徒として歩みはじめよう。

教化実践四項目

- 一 お内仏に正しいご本尊を安置し、お荘厳を正しくしよう。
- 二 塔婆を建てることはやめよう。
- 三 位牌を廃し、法名軸に改めよう。
- 四 法名に信士・居士などの位号をつけるのはやめよう。

報恩講 十一月十九日

当番地区の二部上・中地区の方々や世話人方、大勢の方々のご支援により、浄土真宗寺院の最も大事な法要を厳修することができました。

朝からの寒く大雨の降る悪天候でしたが、本堂に上がりお参りした方は例年とほぼ同じ百人ほどでした。

特に、駐車場係の世話人様、本当にご苦労様でした。



報恩講を運営された方々

敬称を略しアイウエオ順で記しました。)

お磨き 真鍮製仏具磨き)

足達 和 石井和夫 金木姫松
 川名ふじ子 重田澄子 関口昌司
 田中昭一 谷 英郎 田村徹夫
 艦居政男 永井正一 中川克子
 中山郁夫 西尾のぶ子 蓮沼典子
 吉田 誠

お斎 (とき) 係の当番地区女性

朝倉浩子 石井敏子 富澤真知子
 西尾義枝 三堀洋子

前日

青木 實 明石圭司 明石義久
 足達 和 川名信之 川名喜昭
 永井正一 能重初雄 能重輝彦
 増田征夫

当日

青木 實 明石圭司 明石義久
 足達 和 稲葉昭子 大胡登美子
 大胡睦恵 金木庸一 川名信之
 川名喜昭 重田和夫 醍醐敏明
 醍醐祐子 高梨維夫 田村晋一
 富永昇一 艦居政男 永井正一
 能重輝彦 能重初雄 長谷川 登
 廣島敏雄 増田征夫 吉田 誠
 吉本行男
 朝倉 智 軽乗用車貸与)

会計報告

百五十二人の方から合計金額七十万八千円の御懇志、その他にお仏供用うるち米、お供物用餅米、仏花をいただきました。残金二十七万八千二百六円は、奉仕作業費、仏具購入等に充てさせていただきます。

報恩講感話

今まで取り組んできたことなどが、自分の人生にどのような意味を持つものだったのかを振り返っていただき、そこで感じたこと思ったことをお話しすることを感話と言います。紙面の都合で、お話を要約しました。

そうだ！ お寺に行こう

蓮沼 典子

私は、井野に住む蓮沼典子と申します。ちょうど十年前に主人の定年を機会に横浜から移り住んできました。

若い頃に奈良に一人旅したときに、のどが渴き小さなお寺で

お水を所望したんです

が、その時に温かい砂糖湯をいた



だきまして、執事さんと少しお話をさせていただく機会がありました。

その頃の私は若気の至りで、仏像は美術鑑賞の対象ぐらいにしか思っていませんでしたし、お寺も歴史とかいわれには興味がありましたが、何宗でどんな教えの寺だとかには興味はありませんでした。

でも、執事さんとお話するうちに、いろいろ感じることもありました。その後文通させていただいたり、ご自身が一刀彫りなさった五重塔をいただいたりしました。その方はお亡くなりになりましたが、その五重塔は何回私が引っ越しをしても無くなることなく今も私の手元にあります。なにか尊いものをそこに感じていきます。

老年に入った65歳の時に、父母を失いました。父母の死はとってもショックで、あらためて自分の 生死 (むようじ) というものに直面させられました。そしてその時はじめて、かつて執事さんからうかがった仏様のお話しに深くうなずくことができました。

その後、こちらに移り住み忙しく過ごしましたが、もっと正面から仏様のお話を聞けないも

のかとかねがね思っていました。が、こちらの寺のことを知人から教えられ、同朋の会に快く受け入れていただきました。その結果、今日で三回目の報恩講を迎えることができました。

その間、ほんとうにぼんやりしている私でも、ハッとさせられるような言葉とか、ほんとうにすばらしい言葉と出会いました。今はそれが頼りで生きていくようなものではないかと思うぐらいになっております。

かといってすごく熱心な信徒であるかというと情けないんですが、そういう体験をさせていただいていきます。

昔、JR東海のコーマーシャルで「そうだ！ 京都に行こう。」というのがあったとしても好きだったんですけれども、「そうだ！ お寺に行こう。」という感じで、皆様一人ひとりが、何かあったときお寺の門をくぐって、お話をうかがったり出遇いがあったり、そういうことがたくさんあったらいいなあ最近思っています。

岩井川浄化大作戦

能重 初雄

私は、二部に生まれ十年ほど前に勤めを退職し、第二の人生

で農業に従事しています。昭和21年生まれで65歳になりました。

現在、細菌（微生物）のはたらきに関心をもっていきます。植物も細菌の作用で生かされています。微生物がいないと死んでしまうのです。

微生物の中でも特にEM菌のはたらきに注目し、それにより岩井川を浄化しようと、岩井川エコ会」を立ち上げ18人で活動しています。



河川を汚すのは簡単ですが、きれいにするのは大変です。

一度汚れてしまった河川をきれいにするためには世界遺産に登録された白神山地の一市七町村の人々の自然を守る取り組みのような、地域の方々の理解と協力が必要です。

EM菌は、琉球大学農学部教授比嘉照夫先生が、農業分野での土壌改良用として開発した乳酸菌、酵母、光合成細菌を主体とする微生物共生体で、農業、畜産、水産、環境浄化、土木建築など様々な分野に利用されています。放射能の除去にも効果があるといわれています。

私たちは「岩井川浄化大作戦」ということで、岩井川の上流の川上から海までの浄化をしようとして毎週一回300リットルのEM菌を放流しています。EM菌の活動が活発となる夏（7月）には、糠の中に粃殻の薫炭とEM菌を混ぜた団子を発酵させたEM団子を、河川の一番汚れているヘドロの中に放り込んでいきます。EM菌がそれを食べるのです。初めて3年経ち、上流の橋から海に一番近い伏姫大橋でそれぞれ水質検査しましたが結果は良好でした。

館山市でも那古船形でもこの活動をしています。1トンの大きなタンクを作り放流し、海をきれいにするためにボランティアで行っています。

報恩講話

柏市浄眞寺住職前田義朗師にお話いただきました。

下記は、お話の内サブタイトル「焚焼仙経帰楽邦」の一部分を聞き書きしたものです。

なお、「焚焼仙経帰楽邦」は、法事などで皆さんと一緒に勤めしている「正信偈」の中の一節です。「真宗大谷派勤行集」(赤本)21ページに「本師曇鸞梁天常向鸞処菩薩礼 三蔵流支

授浄教 焚焼仙経帰楽」とあります。意訳)親鸞聖人が大事な師匠と仰ぐ曇鸞大師は、中国の梁という国の天子が常に曇鸞大師の居られる方に向かい菩薩として礼拝されていた方です。なぜ天子がそうしたかという点、曇鸞大師は三蔵流支(菩提流支)という僧侶から浄土経典を授けられると、「六ツ」と目を覚まし、不老長寿を説く仙経を焼き捨て、楽邦(浄土)をよりどころとして生きたからです。



曇鸞さんは、四七六年に中国山西省雁門お生まれになり六十七歳の生涯を送られた方です。もととは四論派という仏教の学派に属していましたが、教えが難

解なので自分が長生きしなければ勉強し尽くせないと思われるんです。そう思いこんでしまい、今風に言うところの精神的にまいってしまっておられたのですけれども、ある人から道教の経典(仙経)の中に長生不死の教えがあると教えられるんです。つまり健康で長生きできる教えがある。そこでそれを学びに行くわ

けです。長生きしたいとか病気になりたくないというのには、これは欲です。誰でもあることです。悪いことではありません。曇鸞さんも、長生きしたい。病気になるたくない。仏教の勉強をもっともつとしたい。ということでも長生不死の教えを学ぶために陶弘景(さうこうけい)という道教の先生に会い「衆醮義」(むゆしやうぎ)という書物十巻を手に入れて、「これで私の生き方は万全である」。こう考えて意気揚々と帰ってこられた。

その途中、中国の洛陽という所でインドから来ていた菩提流支という僧侶に出会われるわけです。曇鸞大師が「私はこういうすばらしい教えを手にした。これを読めば長生不死など、すべての願いがかなうのだ」と。

そうすると菩提流支は「ベツ」とツバを吐いて、「何をおまえは言っているのか」。仙経を手に入れて意気揚々としているあなたは、どれだけ生きておられるのか。その方法を学んで十年、二十年、いや五十年生き長らえられたとしても人間の寿命はたかが百年のことではないか。二百年、三百年生きた人がいたとは聞いたことがない」。

春彼岸会の案内

真宗大谷派僧侶でカウンセラーの三橋尚伸先生（女性）にお話しいただきます。

先生は、「鸞笙堂ホットライン」診療所や末期医療の現場などでご活躍のほか、全国各所で法話や我々僧侶の指導をされています。

先生のお話を、千葉組門徒会研修でお聞きした当寺門徒会員の川名喜昭氏と永井正一氏から、「ご門徒に限らずできるだけ多くの方にお話しを聞いていただきたい。」と切望され、私もそう願っていましたので先生にお願いしたところ快諾くださいました。

どうぞご門徒以外の方もお誘いし、聴聞して下さい。

記

- 1 日 時 **3月20日（火）春分の日**
13時30から16時
 - 2 場 所 当寺本堂
 - 3 内 容 法要と法話・質疑
 - 4 参加費 無料
 - 5 持ち物 念珠 筆記用具など
 - 6 参加申込 電話等でお申込ください。
- ※ご不明な点は、寺までお尋ねください。

かりに何年か長生きできたとしても、今、どのように生きていくのか？という仏様からの問いに向き合っていないでないか。」今、どこに向かってどのよう生きるのかを求める者が仏教徒である。」おまえは進むべき道から外れてしまっている。」

そう言われた瞬間、曇鸞大師は「ハッ」として気づき『衆醜苦提流支から『観無量寿経』、一説には『浄土論』を授けられたと言われています。このお経こそが、生まれた意義と生き

る意義を見つけよう」という標語がありました。容が説いてある。

曇鸞大師は、仏道、つまり生まれた意義と生きる意義を、あきらかにしたいと思えば、長生きをしようと思ったのです。けれども仏教とは違う教え、外道（げどう）に入ってしまったわけですよ。仏道を修学しているつもりが外道に堕ちていることに気がつけない。それが菩提流支と出会ってそのことが教えられたわけですよ。生死一如（じうじいちによ）という言葉があります。私は「オギャー

と生まれてきたときに、死ぬという意味です。それを忘れるのです。死ぬ身であることを忘れてるんです。お釈迦様は、生老病死、生まれ老いて病になり死ぬ。そのことが出家の動機です。そのことが、いつも私たちにも問いかけられているけれども、それを忘れる。つまり私達も外道の道を知らず知らず歩んでしまうということです。仏道を外れていくのです。

曇鸞大師は、気づかれました。長生きをして仏教を勉強したい。それで仙経をいただいて喜んでいました。その時に菩提流支に出会って、長生きしたからって、どうなんだ。何のために仏教を勉強しているか。そして、自らの外道性に目が覚めたんです。そこで仙経を焼き捨てた。

迷っていることに気がつかないと、いつまでも迷っている。道理に、気がつくと言うことが大事なのです。

（住職感想）一度そうだと思えば、自分では誤りに気づけない。失敗したり痛い目にあわない。曇鸞大師や親鸞聖人もきっとそうだったんですね。

行事予定

- 1月2日10時〜 修正会
 - 1月8日9時〜 八日講
 - 1月10日9時〜 十日講
 - 1月17日 親鸞教室③
 - 2月12日15時〜 同朋の会
 - 2月14日 親鸞教室④
 - 3月12日 親鸞教室⑤
 - 3月20日13時30分〜 春彼岸会
 - 4月8日15時〜 花まつり 同朋の会
 - 4月18日 親鸞教室⑥
 - 5月13日15時〜 同朋の会
 - 5月17日 親鸞教室⑦
 - 6月8日9時〜 八日講
 - 6月10日9時〜 十日講
 - 6月10日15時〜 同朋の会
 - 6月15日 親鸞教室⑧
 - 6月18日 勝善寺奉仕作業
 - 7月8日15時〜 同朋の会
 - 8月10日10時〜 孟蘭盆会
- 以外は当寺が会場です。



EM菌で水がきれいになりました。能重初雄様、有り難うございます。